

## 場面 1

むかし むかし、ジャックという しょうねんが いました。

おかあさんと、ちいさな おうちに すんで いました。

ふたりは とても びんぼうで、おちちの でなくなった うし だけが  
ざいさん でした。

ある あさ、おかあさんが いいました。

「ジャック、どうしよう。もう たべるものが なんにも ない。」

ジャックは かなしそうに いいました。

「うしを うることに しよう。あした ぼくが いちばに つれて いくよ。」

## 場面 2

あくる あさ おひさまが かおを だすころ、ジャックは うしを つれて、いちばに むかい ました。

ジャックと うしは でこぼこ みちを とぼとぼ あるきました。

おなかがすいて、はやく あるく

ことも できません。すると、とつぜん、ふうがわりな おじいさんが、ぴょんと とびだして きました。

「おい、おまえさん！その うしと わたしの まほうの まめを とりかえっこ しない かね。」といいました。

「ごらん。ほんものの まほうの まめだ。おまえさんを かねもちにして くれるよ。」

そして、しわだらけの てを ゆっくり ひろげました。

まめは きらきら ひかって きれいでした。

ジャックは よろこんで うしを おじいさんに あげました。

そして うきうきして、いえまで スキップして かえりました。

はやく、おかあさんに、みせなくちゃ。

### 場面 3

「おかあさん、みて！」ジャックは いえに かえると おおきなこえで  
いいました。まほうの まめを みせると おかあさんは よろこぶ  
どころか、かんかんに おこり だしました。あんまり おこったので、  
まっかな トマトの ように なりました。

「とんでもない！その じいさんに、おまえは、だまされたのよ！  
こんな まめ だけ では、もう いきて いけないわ。」  
おかあさんは なきだし ました。そして、まめを ジャックの てから つかむ  
と、そとに むかって なげて しまい ました。

「おかあさん、まって！ほんものの まほうの まめだよ！」  
でも、おかあさんは おこって へやを でて いきました。ジャックは  
がっかりして おなかを すかせた まま ベッドに もぐり こみました。

## 場面 4

つぎのひ、ジャックが めを さますと、へやが まっくら です。いったい どうしたのでしょうか。まどを のぞくと、なんと、おおきな まめの きが そらまで のびて いるでは ありませんか。

「わー、すごい！」 しりたがりやの ジャックは まめの きに のぼり はじめ ました。どんどん どんどん あがって いきます。したの ほうで、しんぱい そうな おかあさんの こえが きこえます。

「ジャック！どこへ いくの？ おりて おいで！」  
しかし、ジャックは そのまま のぼり つづけ、くもの なかに きえて ゆきました。

## 場面 5

ながいこと、のぼったところで、とうとう ジャックは、くもの うえにかおを だしました。むこうに みえるのは、おおきな おしろが です。おしろまで あるいて ゆき 「だれか いませんか？」 と とびらを たたき ました。すると、やさしそうな おんなの ひとが でて きました。なかから、おいしそうな においが してきます。

ジャックの おなかが ぐー と なりました。

「おねがい です。なにか たべさせて ください！ おなかが すいて しにそう です。」

おんなのひとは、かおを しかめて いいました。

「そうして あげたいけど、うちの しゅじんは ひとくい きょじん なの。あなたを みつけたら、がぶりと たべちゃうわ。はやく にげなさい。」と いいました。でも、ジャックは、たのみ つづけました。

「おねがいです。ぼく、ほんとうに なんにちも ごはんを たべて いないんです。」

## 場面 6

おんなのひとは ジャックを かわいそうに おもい、 とうとう なかへ  
いれて くれました。 ほっぺたが おちそうな あったかい スープ、  
ローストチキン、 ほかほかの パンに バター、クリームが たっぷり  
はいった プリン、だいすきな くだもの。ジャックは びっくり するほど  
たべました。

すると、とつぜん、おしろが はげしく ゆれました。

「しゅじん だわ！ はやく、かまどに かくれて！」

ジャックは かまどに とびこみ、いきを こらしました。

## 場面 7

ゆれが とまって、しずかになりました。

「にんげんの においが するぞ！」

「まあ、なにを おっしゃるの。かんちがい ですよ。」おんなのひとが  
いいました。

きょじんが、どすんと テーブルに こしかけ ました。

「うるさい！ひるめしを もってこい！」

おいしそうな においの りょうりが つぎつぎ はこばれて きます。

しりたがりの ジャックは がまん できずに、かまどから かおを  
のぞかせ ました。きょじんは、とりの まるやき、 ジャがいも、 ワイン、  
チョコレートケーキを つぎつぎ、たいらげて ゆきます。

## 場面 8

しょくじが おわると、きょじんが また どなり ました。

「まほうの ハープと にわとりを もって こい！」

かわいそうな おんなのひとは はしって とりに ゆきました。

それから、きょじんは ハープに いいました。

「なにか ひくんだ。」

おどろいた ことに、ハープが ひとりでに おんがくを ひきはじめました。

そして、かなしく すきとおった こえで うたい ました。

おんがくが おしろの なかを ゆっくり ながれます。

すると、きょじんが、にわとりに いいました。

「きんの たまごを うめ！」

おっかな びっくり、にわとりは つぎつぎと きんの たまごを うみました。

「なんて、かわいそうな にわとり なんだろう。おかあさんの ところに つれてって やろう。」

## 場面 9

まんぷくで きれいな おんがくを ききながら きょじんは いねむりを  
はじめ ました。その いびきと いったら、まるで おおきな いしが こすり  
あっている ようです。なべや フライパン までが がたがた になりました。  
しずかに、ぬきあし、さしあしで、ジャックは にわとりに ちかづき、  
やさしく だきあげ ました。

ジャックが だいて にげようと すると、ハーブが いいました。

「わたしも、いっしょに つれてって！」

へやを でようと するところで きょじんが めを さまし ました。

「まで！ ちいさな どろぼうめ！」

きょじんが よたよた たち あがろうと する あいだに、ジャックは  
おしろ から にげだし ました。

## 場面10

おかを かけおり、まめの きに とびのり、どんどん おりて ゆきました。  
すると、きょじんも おって きて まめの きに とびのり ました。きが  
ぐらぐら ゆれました。きょじんが どんどん ちかづいて きました。  
おっかない さけびごえを あげて おおきな けむくじゃらの てを  
のばします。もうすぐで ジャックに てが とどこうと したところで、  
にわとりが きょじんの てに かみつきました。あやうく、ジャックは  
のがれる ことが できました。  
きょじんは まいにち たべたり、のんだり、ひるね したり、ぐうたらな  
せいかつを していたので、すぐに つかれて しまいました。

## 場面11

ジャックは、もっと はやく まめの きを すべりおり、とうとう ちじょうにつきました。いえに かけこむと、おかあさんが いなくなった ジャックをおもって なくて いました。

「おかあさん！ かえって きたよ！ はやく おのを かして！」ジャックは さげび ました。そして おので、まめの きを ちから いっぱい うち はじめ ました。

ばん！ ばん！ ばん！

まめの きが、きょじんの おもさで ゆさゆさ ゆれました。

すると とつぜん、つるが おれ、きょじんは じめんに むかって まっさかさま。

じめんに しょうとつ すると、くに じゅうが ぐらぐら ゆれました。

きょじんは じめんに ふかく のめりこんで しまったので、にどと でてくる ことは できません でした。

## 場面12

ジャックが まほうの ハープと にわとりを みせると、おかあさんは  
びっくり しました。

「まあ、これは しんだ おとうさんの たからもの じゃないの。  
ずっと まえに わるい きょじんに ぬすまれたのよ。  
あなたが とりかえして くれたなんて、おとうさんも きっと てんごくで  
よろこんで いるでしょう。」

そのひ から、ハープは たのしい おんがくを かなで、にわとりは きんの  
たまごを たくさん うみました。

ジャックと おかあさんは おかげで おかねもちに なりましたが、  
じぶんたちが まずしかった ころを わすれる こと なく、こまった  
ひとに わけて あげました。そして、いつまでも しあわせに  
くらししましたとさ。

おしまい。